

令和6年度 年間学習指導計画案

科目	家庭基礎	単位数	2単位	学年・学科・コース	1年・普通科・普通コース、スポーツコース
使用教科書	家庭基礎自立・共生・創造（東京書籍）		副教材等	なし	

1. 学習の到達目標と評価の観点

学習の到達目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
---------	---

評価の観点		
a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識とそれらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。

2. 学習計画及び評価規準、評価方法

月	学習項目	学習内容（ねらい）	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
4	家庭科を学ぶにあたって 学校家庭クラブとホームプロジェクトについて	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の意義や内容・方法・評価を理解する。 ・学校家庭クラブとホームプロジェクトについて理解し、家庭科で学習したことを実践する態度が育つ。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題について考えることができる。 ・自己の家庭生活や地域の生活に関心を持ち、意欲的に学習しようとする。 	定期考査 授業態度 ワークシート 課題
4 5	第1章 生涯を見通す	<ul style="list-style-type: none"> ・自立した生活を営むために、生涯発達の視点から、ライフステージの特徴と課題を理解する。 ・生活課題に対して、意思決定を行う重要度を理解し、歩みたい人生の目標を描く。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・人の一生について、生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解している。 ・自分自身の生活を見つめ、自立へ向けて課題を発見し、将来の発達課題とも関わらせ自身の将来について考えをまとめることができる。 ・現在の自分のこと、将来の生活設計を考えることについて、意欲を持って取り組んでいる。 	
5 6	第2章 人生をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・社会制度としての家族や家族と法律を理解するとともに、様々な生き方について考える。 ・家事労働・職業労働について理解し、家庭や社会における男女の共同とワーク・ライフ・バランスについて考える。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めている。 ・図表などから家族の形、家庭の在り方や役割について、変化の背景について読み取ることができる。 ・結婚、家族・家族の形、家族・家庭の役割について、自分とどう関わっているのか、興味関心を持つようとしている。 	
6	第3章 子どもと共に育つ	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の心身の特徴や発達について理解し、子どもの親・家族・周囲の人々との関わりの大切さを学ぶ。 ・子どもを取り巻く社会変化の現状を理解し、子育て支援の在り方を考える。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の心身の特徴や発育・発達について理解し、乳幼児と関わるための基本的技能を身に付けている。 ・子どもを生み育てることの意義や、子どもを取り巻く問題と解決策について考えることができる。 ・生命の尊さや子どもを生み育てることの意義、子どもを取り巻く問題などについて、自分の現在・将来と結び付けながら考えようとする。 	

月	学習項目	学習内容（ねらい）	評価の観点			評価規準	評価方法
			a	b	c		
7	第4章 高齢社会を生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会の現状と課題を理解する。 ・高齢期の心身の特徴を理解する。 ・高齢者福祉制度について学び、課題を考える。 	○			・高齢者の心身の特徴について理解している。	定期考査 授業態度 ワークシート 課題
				○		・高齢者を取り巻く問題について考え、改善のためにできることについて考えることができる。	
					○	・高齢者を取り巻く問題などについて、自分の現在・将来と結び付けながら考えようとする。	
7	第5章 共に生き、共に支える	<ul style="list-style-type: none"> ・一生を通じた社会保障制度を理解する。 ・ノーマライゼーションの実現に向けて実践的な態度を身に付ける。 	○			・年金・健康保険・雇用保険や、福祉制度など、生涯の社会保障制度について理解している。	
				○		・多様な人々と共存し、助け合っていくために必要な能力や方法について考えることができる。	
					○	・多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域はどのような役割を果たし、つながっていけばよいか、考えようとする。	
9 10	第6章 食生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養と健康の関係を理解し、日常の食生活を改善していく態度を身につける。 ・調理に必要な基本的知識と技術を習得する。 ・生涯を通して健康・安全で持続可能な食生活を営めるようになる。 	○			・日常の食生活が重要であることを理解し、栄養や調理の基礎的知識を身に付けている。	
					○	・食に関わる安全・環境・健康などの問題や自己の食生活の問題について思考し、望ましい食生活の在り方を考えることができる。	
					○	・自分自身の食生活について関心を持ち、意欲的に改善・向上に努めようとする。	
10 11	第7章 衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・被服の役割を理解し、適切な被服の選択ができるようになる。 ・被服材料の種類と特徴や被服の管理方法を理解し、入手・管理において知識を活用できるようになる。 ・持続可能な衣生活について考える。 	○			・被服材料の特徴や管理の方法などを理解し、好ましい被服選択や管理ができるようになる。	
					○	・衣生活に関わる安全・環境・健康などの問題について思考し、望ましい衣生活の在り方を考えることができる。	
					○	・自分の衣生活を取り巻く状況について関心を持ち、意欲的に改善・向上に努めようとする。	
12 1	第8章 住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・住居の機能・役割や間取りについて理解し、ライフステージや家族構成に応じた住まい方を選択できるようになる。 ・安全で環境に配慮した住生活を理解し、今後の課題を考える。 	○			・住居の機能・役割、ライフステージや家族構成などと住まいの関係について理解している。	
					○	・住生活に関わる安全・環境・健康の問題などについて思考し、望ましい住生活の在り方を考えることができる。	
					○	・住まいの機能、住空間の計画や住環境について関心を持ち、意欲的に取り組もうとする。	
1	第9章 経済生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者には権利と責任があることについて理解し、消費者市民社会について考える。 ・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。 	○			・消費者の権利と責任などについて理解できるとともに、現代の消費生活の課題について認識できる。	定期考査 授業態度 ワークシート 課題
					○	・消費者としての自覚を持ち、消費者の権利と責任を考えることができる。	
					○	・自分が一消費者であることを自覚し、消費行動や環境との関わりについて積極的に理解しようとする。	
2	第10章 持続可能な生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを考える。 ・持続可能な社会を目指した国際的な取り組みとその重要性について理解する。 	○			・生活と環境の関りや持続可能な消費について理解している。	
					○	・消費行動と環境との関りについて、生活と関連させながら課題をみつけ、解決の方向性を判断することができる。	
					○	・持続可能な社会参画することへ意欲的に取り組もうとする。	
3	第11章 生活を設計する	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭基礎の学習を活かして、自分らしい生き方について考える。 	○			・生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解している。	
					○	・家庭基礎で学んだ知識や技術を確認し、これからの人生を考え、設計できる。	
					○	・自己の生活を積極的にマネジメントしようとする。	